

Ⅲ 調査から見た「男女共同参画社会 基本法」制定以降の意識の変化

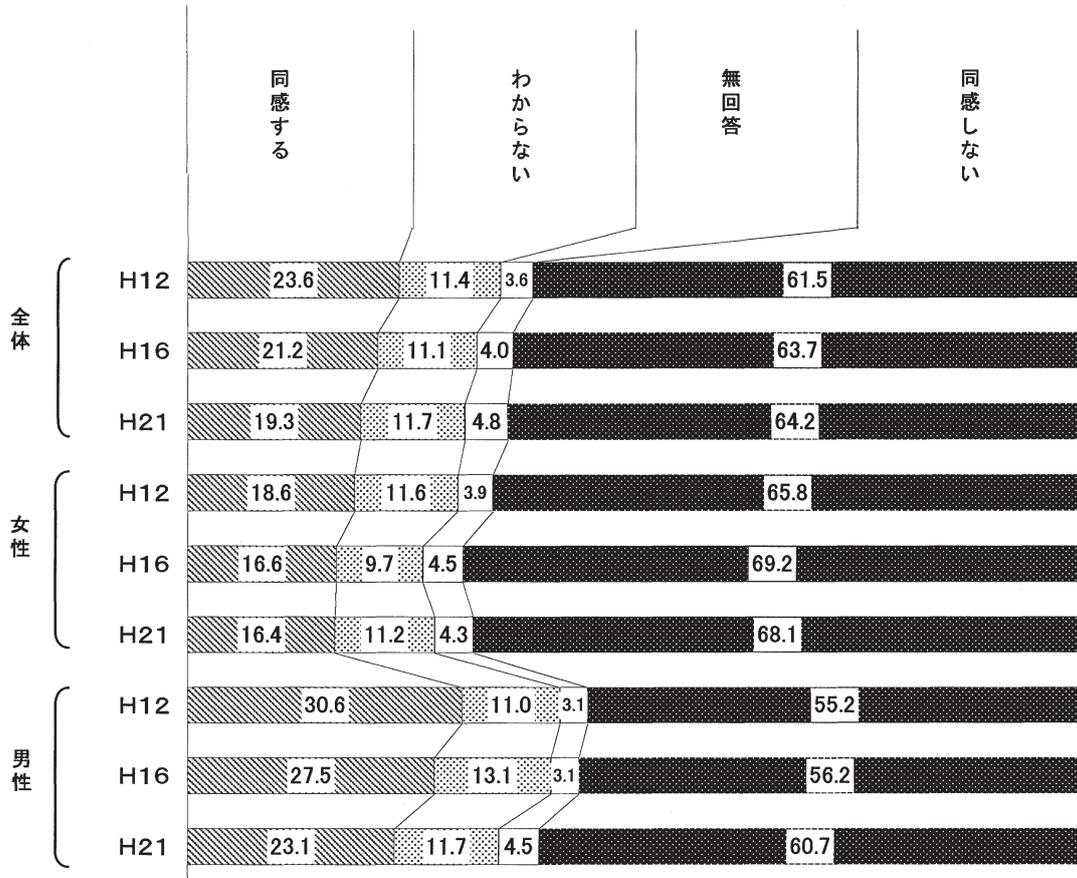
Ⅲ 調査から見た「男女共同参画社会基本法」制定以降の意識の変化

平成11年6月の男女共同参画社会基本法の制定から10年が経過したが、平成12年と平成21年の県民意識調査の結果を比較し、この間の意識の変化を概観する。

1. 男女の役割分担意識

問 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。

【図表0-1 「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識】



◆男性で「同感しない」が増加

全体では「同感する」が、H12年調査と比べると、4.3ポイント減少する一方、「同感しない」は、2.7ポイント増加している。

女性では、「同感する」が2.2ポイント減少し、「同感しない」は、2.3ポイント増加している。

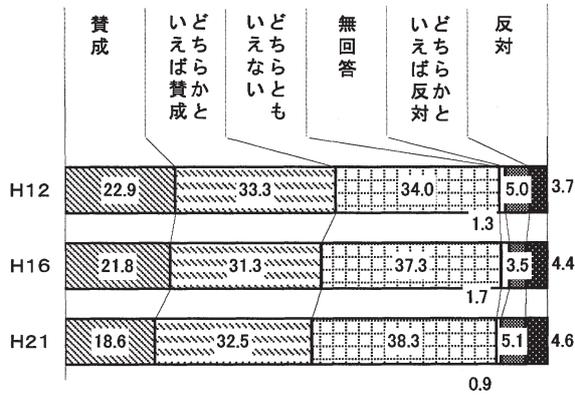
男性では、「同感する」は7.5ポイント減少し、「同感しない」は、5.5ポイント増加し、女性に比べて男性の方が意識の変化が大きい。

2. 結婚・家庭・離婚・夫婦別姓等についての考え方

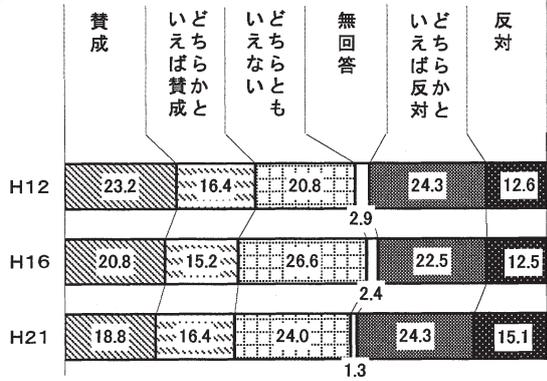
問 結婚や離婚、夫婦別姓等についてあなたはどのようにお考えですか。あなたのお考えに最も近いものにそれぞれ1つずつ○印をつけてください。

【図表0-2 結婚・家庭・離婚・夫婦別姓等についての考え方】

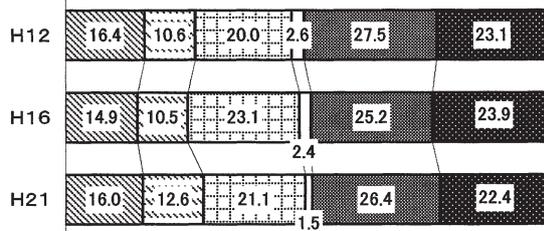
なんと言っても女性の幸福は結婚にあるので、
女性は結婚するほうがよい



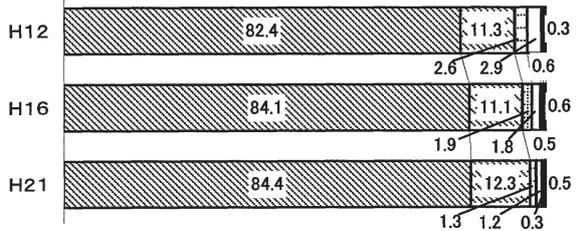
結婚は個人の自由であるから、人は結婚しなくてもよい



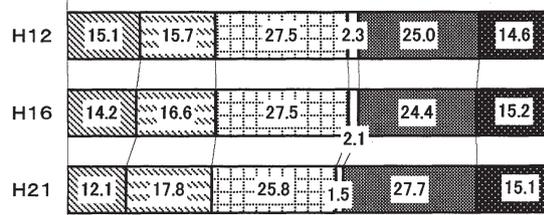
結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない



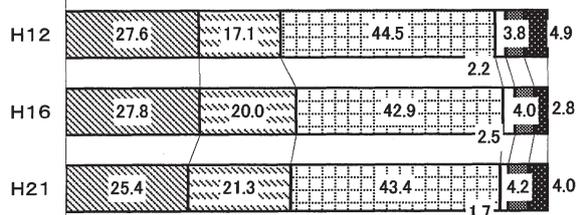
夫も妻も家庭責任はともにもつべきである



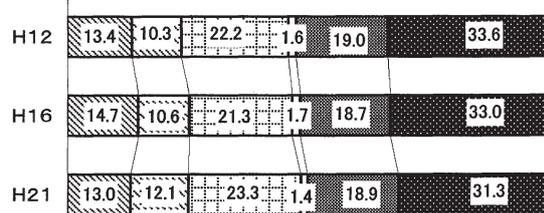
結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい



一般に今の社会では、離婚すると、女性のほうが不利である



夫婦が別々の姓を名乗ることを認める方がよい



◆「結婚は個人の自由であるから、人は結婚しなくてもよい」では「賛成」が減少

「なんと言っても女性の幸福は結婚にあるので、女性は結婚する方がよい」では、H12年調査と比べて、『賛成』（「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合）が5.1ポイント減少し、「どちらとも言えない」が4.3ポイント増加し、『反対』（「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合）も増加している。

「結婚は個人の自由であるから、人は結婚しなくてもよい」では、H12年調査と比べて『賛成』が4.4ポイント減少し、『反対』が2.5ポイント、「どちらとも言えない」が3.2ポイント増加している。

「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」では、H12年調査と比べて、『賛成』が1.6ポイント増加し、『反対』が1.8ポイント減少している。

「夫も妻も家庭責任はともにもつべきである」では、H12年調査と比べて、『賛成』が3.0ポイント増加している。

「結婚しても相手に満足できないときには離婚すればよい」では、H12年に比べて『反対』が3.2ポイント増加している。

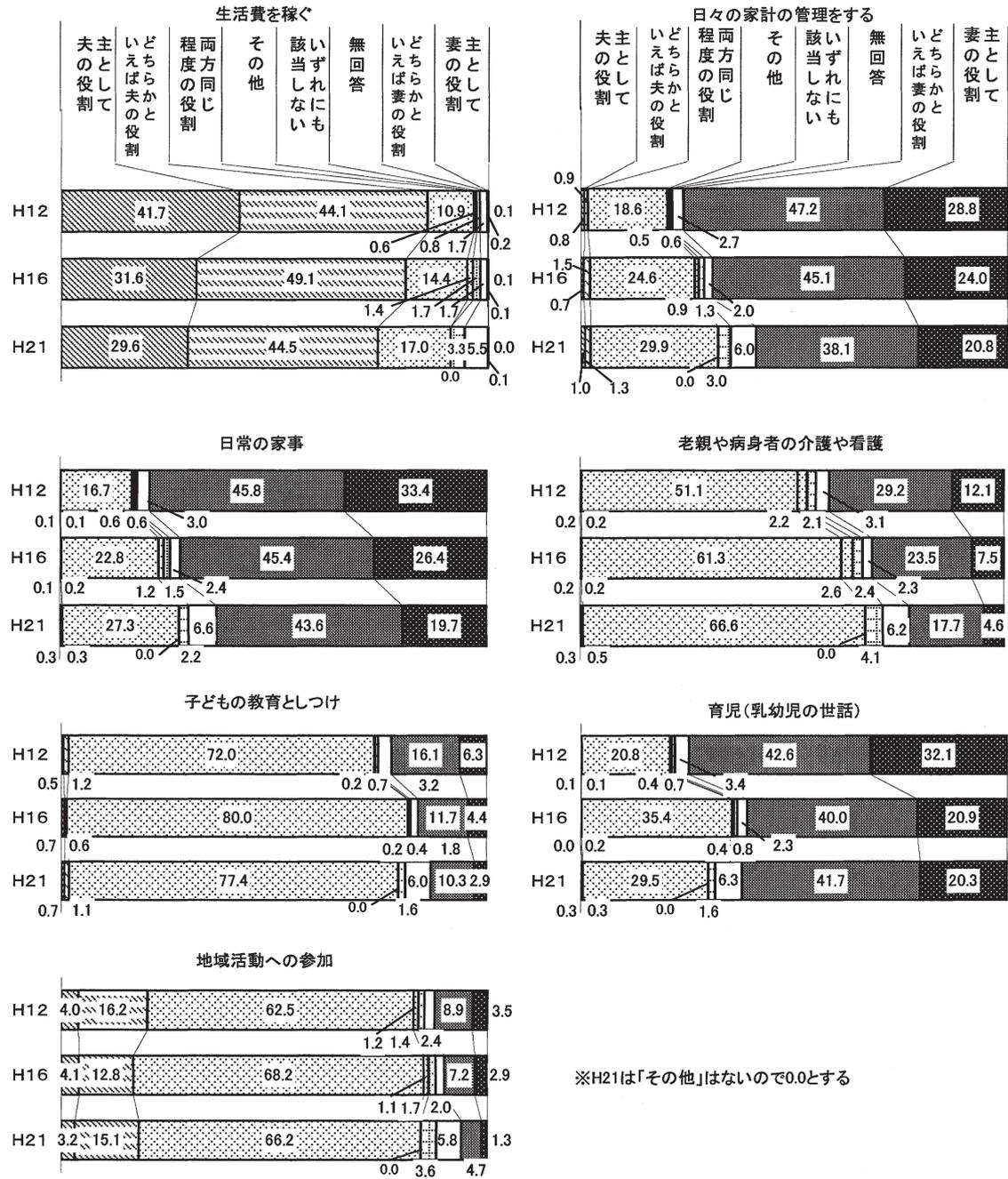
「一般に今の社会では、離婚すると、女性の方が不利である」では、H12年調査に比べて、『賛成』が2.0ポイント増加し、『反対』は微減している。

「夫婦が別々の姓を名乗ることを認める方がよい」では、H12年調査に比べて、『賛成』が1.4ポイント増加し、『反対』は2.4ポイント減少している。

3. 家庭での仕事の役割についての考え方

問 家庭の仕事の役割について、あなたはどのようにお考えですか。配偶者のいない方についても、次のような日常的なことが、どなたの役割だとお考えになるかお答えください。

【図表0-3 家庭での仕事の役割についての考え方】



◆すべての「家庭での仕事」について「両方同じ程度の役割」が増加

「生活費を稼ぐ」では、H12年調査に比べて、『夫の役割』（「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」を合わせた割合）が11.7ポイント減少し、「両方同じ程度の割合」が6.1ポイント増加した。

「日々の家計の管理をする」では、H12年調査と比べて、『妻の役割』（「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」を合わせた割合）が17.1ポイント減少し、「両方同じ程度の役割」が11.3ポイント増加した。

「日常の家事」では、H12年調査に比べて『妻の役割』が15.9ポイント減少し、「両方同じ程度の役割」が10.6ポイント増加した。

「老親や病身者の介護や看護」では、H12年調査に比べて、『妻の役割』が19.0ポイント減少し、「両方同じ程度の役割」が15.5ポイント増加した。

「子どもの教育としつけ」では、H12年調査に比べて、『妻の役割』は、9.2ポイント減少し、「両方同じ程度の役割」が5.4ポイント増加している。

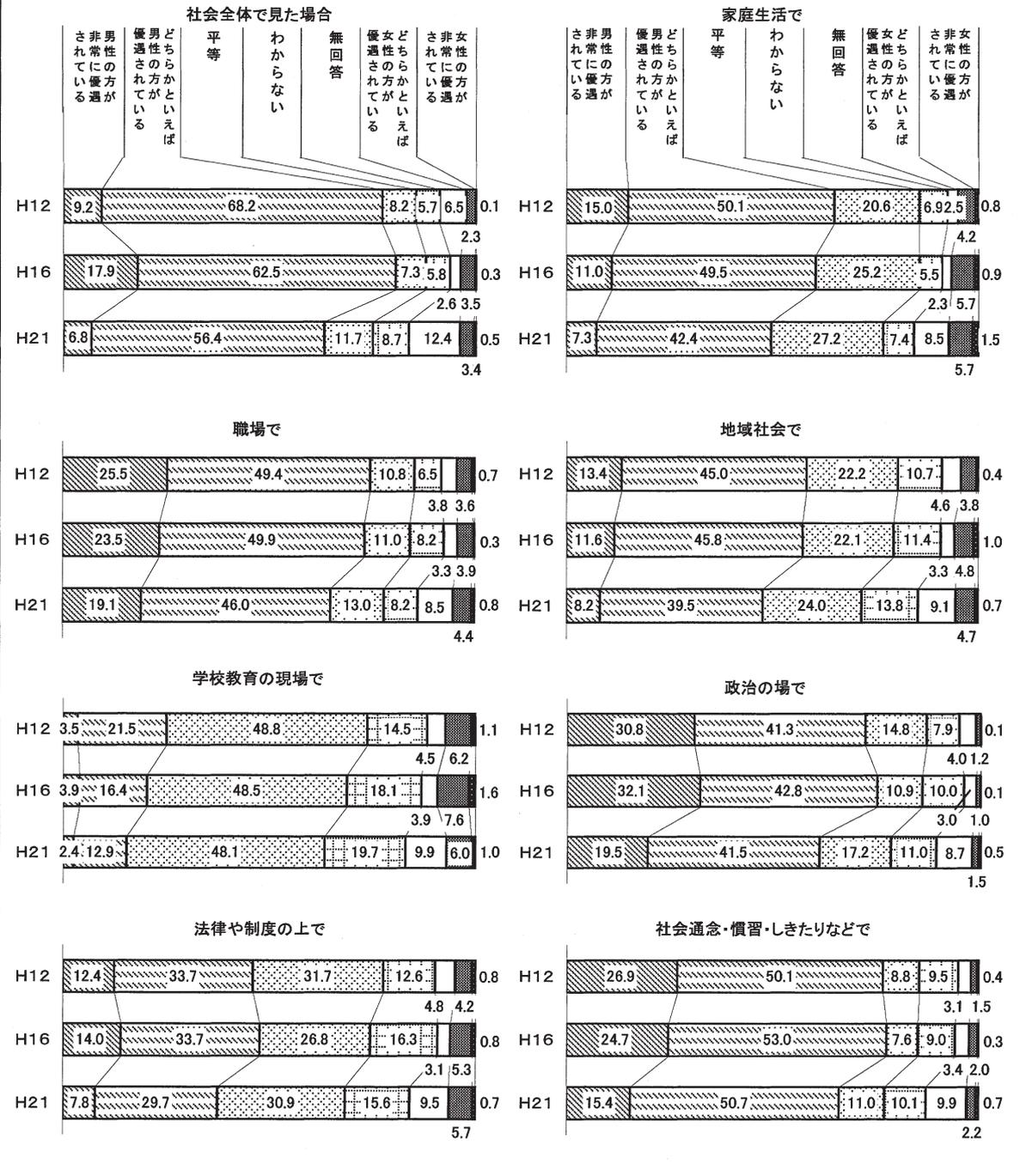
「育児（乳幼児の世話）」では、H12年調査に比べて、『妻の役割』が12.7ポイント減少し、「両方同じ程度の役割」が、8.7ポイント増加している。

「地域活動への参加」では、『夫の役割』が1.9ポイント、『妻の役割』が6.4ポイント減少し、「両方同じ程度の役割」が3.7ポイント増加している。

4. 各分野・社会全体における男女の地位の平等意識

問 あなたは次にあげる分野で男女の地位は平等になっているとお考えですか。それぞれについてお答えください。

【図表0-4 各分野・社会全体における男女の地位の平等意識】



◆社会全体、各分野で『男性が優遇』が減少

社会全体や各分野で、H12年調査と比べると、概ね『男性が優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合）が減少し、「平等」が増加している。

「社会全体で見た場合」では、12年調査に比べて、『男性が優遇』が14.2ポイント減少し、「平等」が3.5ポイント増加しているものの、『男性が優遇』は6割を超えている。

また、各分野ごとに見ると「家庭生活で」では、12年調査に比べて、『男性が優遇』が15.4ポイント減少し、「平等」6.6がポイント増加している。

「職場で」では、12年調査に比べて、『男性が優遇』が9.8ポイント減少し、「平等」が2.2ポイント増加しているものの、『男性が優遇』は6割を超えている。

「地域社会で」では、12年調査に比べて、『男性が優遇』が10.7ポイント減少し、「平等」が1.8ポイント増加している。

「学校教育の現場で」では、12年調査に比べて、『男性が優遇』が9.7ポイント減少し、ほぼ半数の人は「平等」と考えている。

「政治の場で」では、12年調査に比べて、『男性が優遇』が11.1ポイント減少し、「平等」が2.4ポイント増加しているものの、『男性が優遇』は6割を超えている。

「法律や制度の上で」では、12年調査に比べて、『男性が優遇』が8.6ポイント減少し、「平等」も微減している。

「社会通念・慣習・しきたりなどで」では、12年調査に比べて、『男性が優遇』が10.9ポイント減少し、「平等」が2.2ポイント増加しているものの、『男性が優遇』は6割を超えている。

